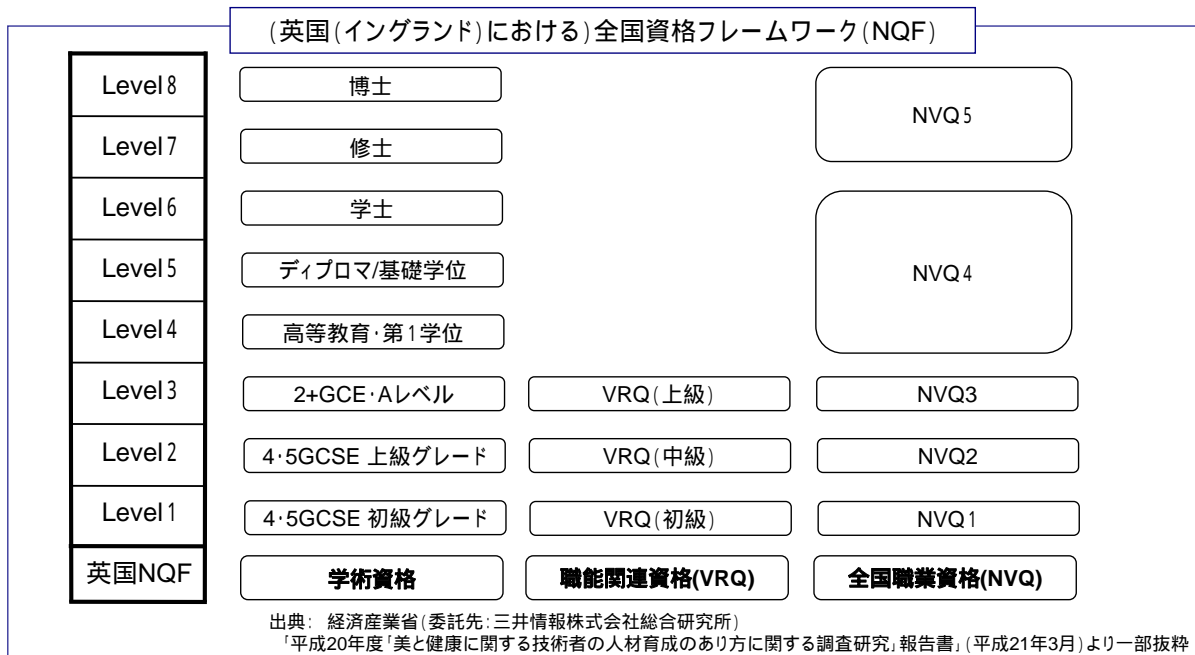


イギリス(イングランド)における職業資格と学位等の資格枠組み(2002.9~)

学術資格と職業資格の峻別が、社会的に負の結果をもたらしているという報告書¹が1997年に出され、これに応じて政府は新しい資格フレームワークの整備を進めてきた。イングランドでは1997年にQCAが設立され、「全国資格フレームワーク(National Qualifications Framework: NQF)」を整備した。(「イギリスにおける地域人材の育成と認証システム」 小山善彦(2004)より一部抜粋)

1 Report of the National Committee of Inquiry into Higher Education, July 1997 (Dearing Report)



用語注:

GCSE: General Certificate of Secondary Education(中等学校修了一般資格: 16歳に受験するのが一般的)

GCE: General Certificate of Education(大学入学資格: 18歳に受験するのが一般的)

NQF: National Qualifications Framework NVQ: National Vocational Qualifications QCA: Qualifications and Curriculum Authority

VRQ: Vocation-Related Qualifications, もしくは、GNVQ: General National Vocational Qualification(一般全国職業資格)とも呼ばれる。

イギリス(イングランド)における新しい資格枠組み(QCF)について

全国資格フレームワーク(NQF)及び全国職業資格(NVQ)は、2008年からの「資格単位枠組み(QCF)」の本格実施に向けた移行作業が行われている。QCFの導入により、学習者にとっては、学習方法等に関する選択の幅が広がり、それぞれのペースで、様々な媒体から、それぞれに合致した方法により資格を得ることが可能となる事が期待されている。(2010年には主要職業資格について移行する予定。)

Qualifications and Credit Framework(QCF)の特徴

- すべての資格は「レベル(難しさ)」と「学習量(単位数)」によって定められている(表1)。
- すべての資格は、「ユニット」で構成されている(表2)。また、すべてのユニットは、必要な単位数を定めている。
- すべての資格は、単位数に応じて、3種類のタイプに分類されている。(表3)。

表1. Qualifications and Credit Framework(QCF)の構成

	レベル	Award (1-12)	Certificate (13-36)	Diploma (37以上)
↑ レベル	8			
	7			
	6			
	5			
	4			
	3			
	2			
	1			
	基礎			
		→ 学習量(単位数)		

表3. 資格タイプの3分類

1単位あたりの学習量は10時間

資格タイプ	単位数	資格の特色と用途
Award	1-12	最小サイズの資格で、通常は1つのユニットだけで構成される。初めて資格を取得する人や、職業分野への入門者に適したタイプ。あるいは、職業訓練において、1つのユニットだけの内容を学習させたい場合などに適している。
Certificate	13-36	中サイズの資格で、3ユニット程度で構成される。職場の仕事でコアとなる複数テーマについて学習するのに最適サイズの資格。
Diploma	37以上	もっとも大きなサイズの資格で、通常は必須ユニットと選択ユニットで構成される。キャリアで必要となる多様なテーマについて総合的に学ぶのに適した資格。

表2. ユニットに表示されるべき内容

表示項目	内容
タイトル	ユニットの内容を正確に示す記述
レベル	ユニットによって達成される学習アウトカムのレベルの設定。QCF共通基準(9レベル)を参考に決定。なお、このレベルはユニットに所属するもので、資格全体のレベルとは関係がない。
単位数	ユニット履修者に与えられる単位数。1単位は10時間の学習時間が基準。
学習アウトカム	学習者が習得すべき知識、理解度、能力(できること)の記述。
評価基準	学習アウトカムを達成していることを証明するために、学習者が満たすべき標準の設定。ただし、具体的なアセスメントの方法やツールについての記述は含めない。

(例)

- 3単位のユニットであれば、平均30時間の学習を必要とするユニットである、ということを示している。
- レベル5の資格が10ユニットを持ち、その単位数の合計が32単位であれば、学習者はレベル5の「Certificate」という称号を平均320時間の学習によって得ることになる。

出典: 小山善彦

「イギリスの資格履修制度-資格を通しての公共人材育成-」(2009)より抜粋

Qualifications and Credit Framework(QCF)の資格例について

職能資格の開発および授与に責任をもつのは、Awarding Body(以下、「授与団体(AB)」とする。)であり、現場での資格教育や研修を担当するのは、「センター」あるいは「プロバイダー」と総称される団体である。

資格とユニットの関係を見るために、ある授与団体(Chartered Management Institute)が開発した資格について以下に例示する(表4・表5)。

表4. CMI資格「Level 7 Strategic Management and Leadership」のユニット構成と単位数

ユニットタイトル	単位数
グループA:	
戦略的マネージャーとしての自己成長	6
戦略的なパフォーマンス・マネジメント	7
資金的なマネージメント	7
戦略的な情報マネージメント	9
戦略的マネージメントの実践	10
組織としての進路	9
グループB:	
資金計画	6
戦略的なマーケティング	6
戦略的なプロジェクト・マネージメント	6
組織改革	7
戦略的なプランニング	9
人事計画	8
戦略的リーダーとなるために	7
戦略的リーダーシップの実践	7

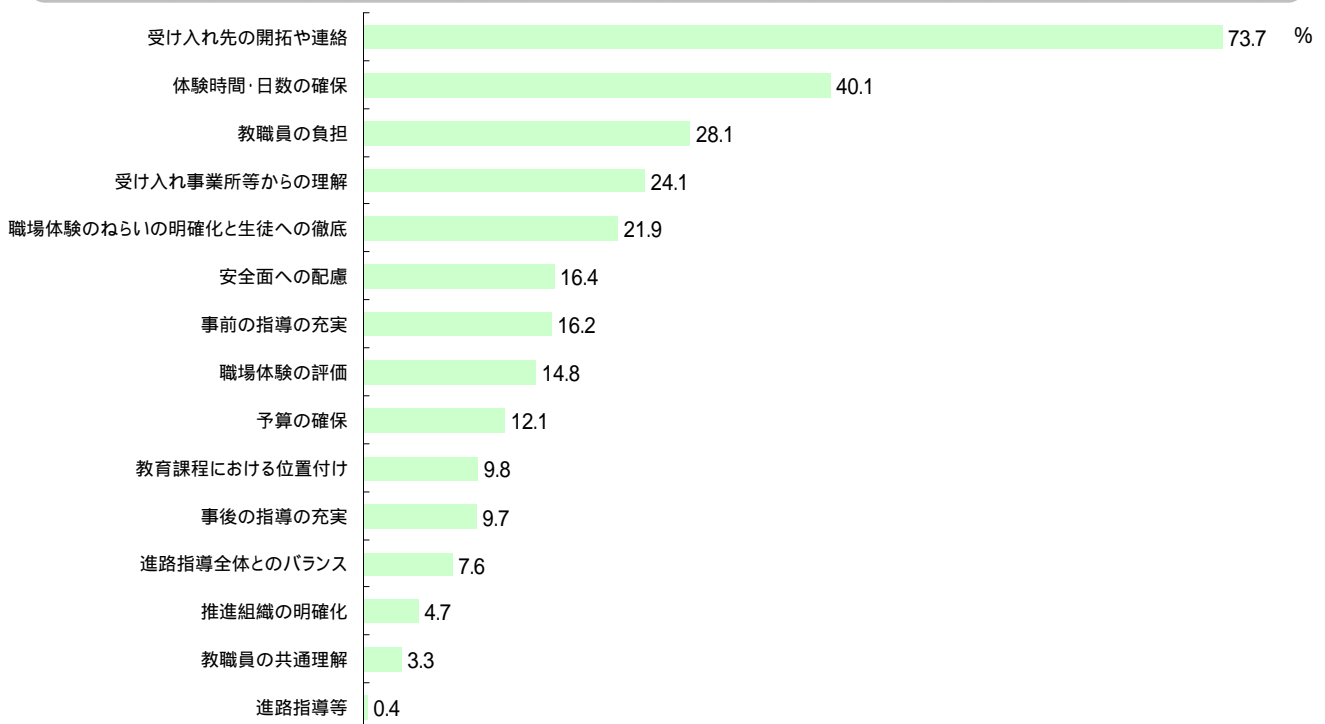
表5. 「Level 7 Strategic Management and Leadership」を構成する1つの必須ユニットの学習アウトカムと評価基準

ユニットタイトル	Personal development as a strategic manager (戦略的マネージャーとしての自己の成長)
ユニット目的	戦略的レベルにおいて効果的な運営を行うために、マネージャーとして身に付けるべきリーダーシップ技術の習得
レベル	7
単位数	6
学習アウトカム	評価基準
1 戦略的な目的(ambitions)を達成するために必要な自己のスキルを明確にできる	1.1 組織としての戦略的な進路を分析できる 1.2 組織としての戦略的目的を達成するために、リーダーとして身に付けるべき戦略的スキルが判断できる 1.3 戦略的目的を達成するために、既存の技術、必要とされる技術、そして将来の技術の関係を評価できる
2 戦略的目的の達成に貢献できるように、リーダーとしての自己の成長を管理(manage)できる	2.1 リーダーシップ能力養成のための機会についての分析ができる 2.2 リーダーシップ能力養成のための個人的開発プランを作成できる 2.3 この開発プランを実践に移すためのプロセスを立案できる
3 リーダーシップ能力開発プランの効果の評価ができる	3.1 開発プランの目的に照らし、どのようなアウトカム(成果)が得られたかの評価ができる 3.2 このアウトカムが、組織としての戦略的目標にどのようなインパクトを与えたかの評価ができる 3.3 リーダーシップ能力開発プランのレビューおよび更新ができる
4 質を重視する組織文化を醸成するために、健康的で安全な組織環境を促進できる。	4.1 組織および個人としての健康・安全面での責任体制が、組織にどのようなインパクトを与えているかの評価ができる 4.2 組織としての質文化が、組織としての戦略的目標の達成にどのように影響を与えているかの予測ができる

出典: 小山善彦「イギリスの資格履修制度・資格を通しての公共人材育成」(2009)より抜粋

中学校における職場体験活動の課題

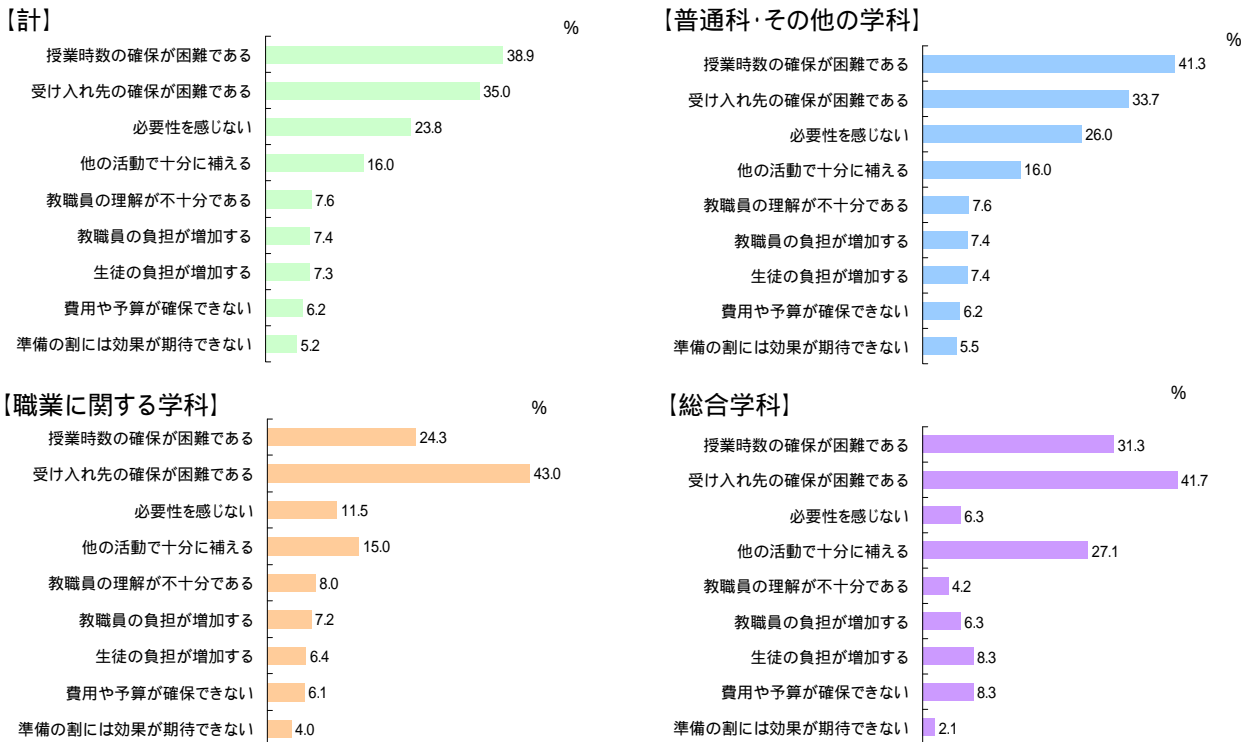
「受入先の開拓や連絡」を挙げる学校が約74%を占めており、円滑に実施するための条件整備を図ることが課題



(出典) 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター「職場体験・インターンシップ現状把握調査」(平成16年)

高等学校において就業体験活動を実施しない理由

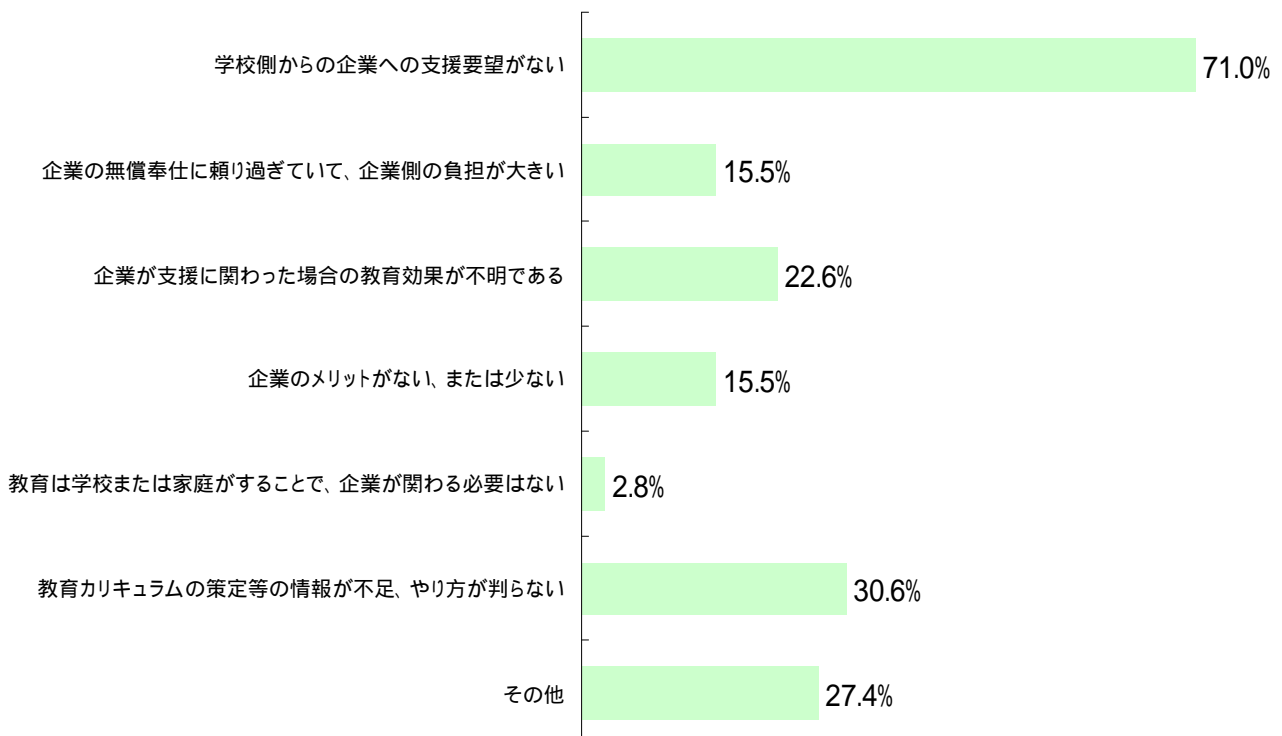
いずれの学科においても、「授業時数の確保が困難」「受入れ先の確保が困難」が「必要性を感じない」「他の活動で補える」を上回っている



(出典) 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター「職場体験・インターンシップ現状把握調査」(平成16年)

企業が教育支援活動を行わない理由

企業側の負担が大きいと考える企業が約16%ある一方で、学校側からの企業への支援要望がないという企業が約71%と最多



(出典) 東京商工会議所 教育問題委員会「企業による教育支援活動に関するアンケート」(平成20年)

➤ 「**産学人材育成パートナーシップ**」は、人材育成に関し大学と産業界の連携・協力を強化するため、産学が連携して双方の対話と取組の場を創設するもの。産学の横断的課題や業種・分野的課題等について幅広く議論を行うことで、人材育成に係る**産学双方の共通認識を醸成**し、その後の**産学双方の具体的な行動**に繋げていく。

「**社会総がかりで教育再生を - 第三次報告 -**」(平成19年12月15日**教育再生会議**)

人材育成に関する大学と産業界の連携・協力等のための会議(「**産学人材育成パートナーシップ**」)の活用や
学術関係団体との連携等により、大学は、社会の要請にあった質の高い卒業生を送り出す。

「**経済財政改革の基本方針2007**」(平成19年6月19日**閣議決定**) (抄)

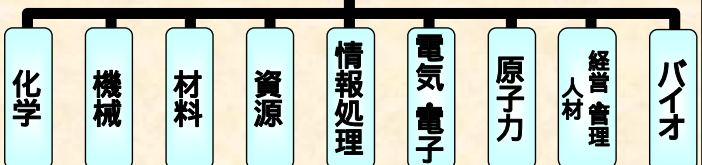
産学双方向の対話(「**産学人材育成パートナーシップ**」)等を推進する。

<全体会議>

日本経団連、経済同友会、日本商工会議所
国立大学協会、公立大学協会、私立大学協会、私立大学連盟
各分科会議長

日本学術会議と官(文部科学省と経済産業省)はオブザーバー

<分科会>



【産学人材育成パートナーシップでの提言の例：材料分科会】

- (1) 産業の最先端で貢献する基礎の位置付けが理解できるような教育プログラムの共同開発などによる「基礎教育の強化」
- (2) 学生のみならず、教員も参画したインターンシップの実施
- (3) 施設・教員等のリソースを有効活用した拠点づくり
- (4) 人材育成の観点を取り入れた産学共同による研究開発プロジェクトの実施
- (5) 材料系分野の魅力普及・啓蒙に掛かるPR活動
- (6) 産業界のニーズも踏まえた「大学評価システム」の充実

目次

初等中等教育

学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例

【神奈川県川崎市立荻宿小学校】	189
【東京都墨田区立寺島中学校】	190
【秋田県立能代高等学校（普通科・理数科）】	191
【神奈川県立田奈高等学校（普通科）】	192

キャリア教育に関連する目標・内容及び教育活動の例

（小学校・中学校・高等学校）	193
科目「産業社会と人間」の取組例	196
高等学校普通科における職業教育の実践例【大阪府立布施北高等学校】	198
専門高校における職業教育の実践例	
【岐阜県立岐阜商業高等学校】	199
【地域産業の担い手育成プロジェクト（熊本県）】	200
【地域産業の担い手育成プロジェクト （茨城県教育委員会・日立商工会議所）】	201
専門高校における施設・設備等を効率的・効果的に活用している例	202
不登校や中途退学を経験している生徒等の受入れに対応している 専修学校高等課程の例	203

高等教育

高等教育段階におけるキャリア教育の取組	204
【1】入学前段階や入学初年次における後期中等教育からの円滑な接続や 学びへの意欲の向上のための教育上の配慮	205
【2】教育過程の中に位置付けられたキャリア教育	207
【3】入学から卒業までを見通したキャリア教育	208
【4】身に付けるべき能力の明確化と到達度の評価	210
【5】一人一人のキャリア形成に応じた支援	212
【6】女性の多様なキャリアを意識した取組	215
【7】後期中等教育と高等教育の連携	217

生涯学習の観点に立ったキャリア形成支援の充実

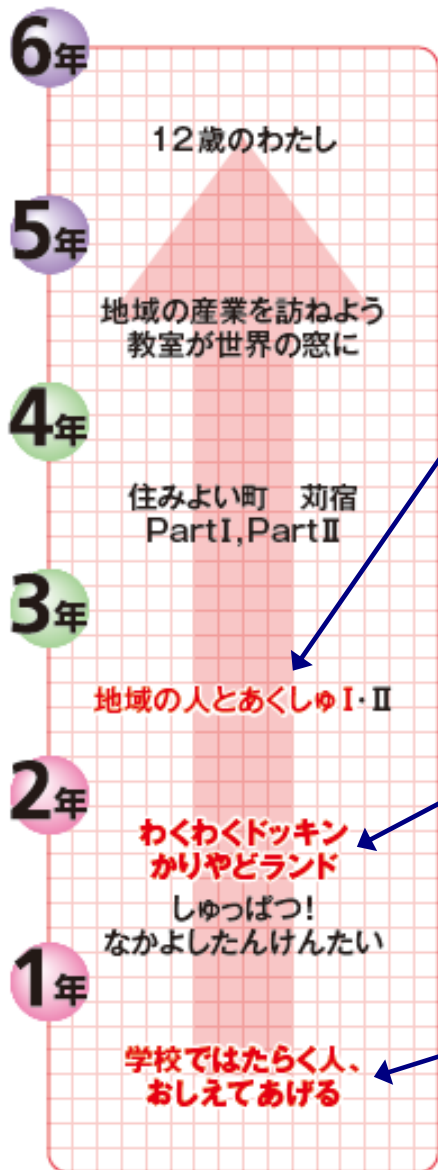
学校から社会・職業へ生活が移行した後の学習者に対する支援.....	2 1 8
進路が決まっていない新規高等学校卒業者に対し、教育機関を活用して 職業教育の場を提供している例.....	2 2 5
中途退学者や無業者などのキャリア形成のための支援.....	2 2 6
学校・教育委員会と地域若者サポートステーションが連携している例 【高知県「若者はばたけネット」】	2 2 8
図書館において職業に関する情報を提供している例	2 2 9

様々な連携の在り方

協議会等の設置により、キャリア教育・職業教育を円滑に進めている例 【大阪キャリア教育支援ステーション】	2 3 0
【しが学校支援センター】	2 3 1

学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例 ① ～ 神奈川県川崎市立荻宿小学校 ～

● キャリア教育の視点からの様々な教育活動の見直しと、地元商店街との連携による体系的な実践



◇ 3年生 地域の人とあくしゅ I -商店街でお手伝い- 総合的な学習の時間 25時間

町へ出かけ、店、工場、公共施設、交通などの町の様子や特徴について調べる中で、子どもが自分の住む地域のことにあまり目を向けていないという実態が見えてきた。そこで、地域の商店会の協力を得て商店での体験学習を計画し、社会科の学習を踏まえて展開した。

商店での手伝い体験は、学校や家族以外の人とのかかわり方を学ぶ場としてとらえられる。商店の人やお客さんとの触れ合いを通して、自分の町のことを理解し、地域の一員としての自覚をはぐくむとともに、商店で働く人の様子や工夫・努力に実際に触れることで自分の役割を果たすことの大切さや相手のことを考えた言動の重要性などを実感し、自分の生活に生かすことを目指している。

○商店や手伝いについて調べよう (9時間) ○手伝いする商店を決めよう (3時間)

○商店で手伝いをしよう I・II (7時間) ○体験したことをまとめよう (6時間)

本単元を通して、子どもたちは達成感や自己有用感を得ることができ、地域の人々の暮らしや仕事への関心を高めることができた。

◇ 2年生 わくわくドッキン かりやどランド 生活科 10時間 特別活動 2時間

子ども祭り「ファンタジーフェスティバル(2年生・秋の学校行事)」で、1年生と協力して、自分たちで遊びやルールを考え、お客さんが楽しめるような遊びのコーナーをグループで分担して作った。当日は幼稚園、他学年、地域の人々等、様々な立場の人とかかわりを持つことができた。

◇ 1年生 学校ではたらく人、おしえてあげる 生活科 10時間

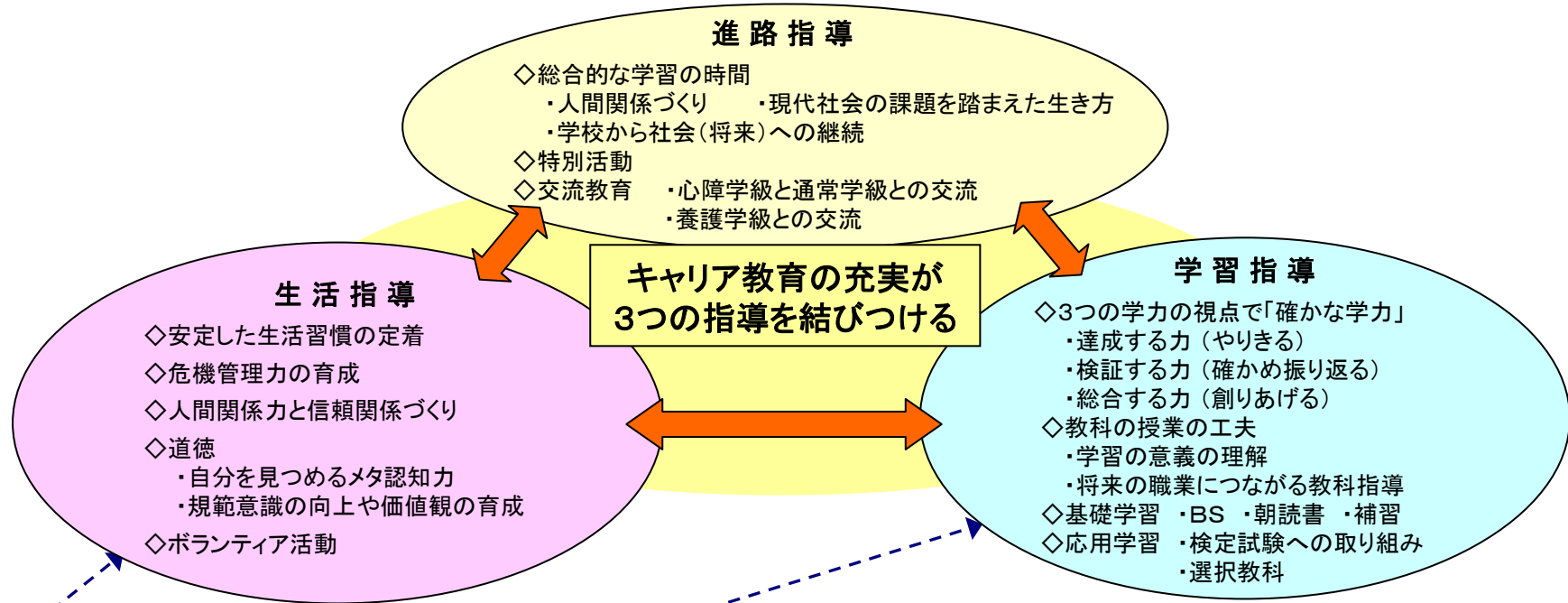
学校生活に慣れた9月、学校で働く人々についての学習を計画した。用務員、事務職員、給食調理員、栄養士、養護教諭などに、どんな仕事をしているのか、インタビューした。そして、グループごとに分かったことを発表した。この学習の後には学校で働く人々の名前を呼んであいさつをしたり、話しかけたりするようになった。

(出典) 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター

「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」(小学校向けキャリア教育推進パンフレット)(平成21年3月)より作成

学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例 ② ～ 東京都墨田区立寺島中学校 ～

- 「現代から将来にかけて、自己の取り巻く社会の中で、自分を生かしていける生徒」「自分のよさを知り、目標を掲げて、自分を高めていける生徒」の育成を目指している。
- キャリア教育の充実により、進路指導・生徒指導(生活指導)・学習指導の3つの指導を結びつけている。



・ 将来の職業的な自立・社会的な自立を長期的な目標にすえた指導

生徒は、将来への展望を持たせることで現在の生活を振り返らせると、現在の生活の改善の意義に気付き、意図的・計画的な生活を送ろうとする

・ 学校で学ぶことが、将来、社会でどのように役立つのかを理解させることを重視。

・ 教科の学習では、今、学校で学習していることと将来との関連を理解させた上での学習をさせるため、「学習の意義」を各教科まとめて一冊にして生徒・保護者に渡し、面談や学級活動での学習のガイダンスに使用するなど、「学習の意義、目的」の理解による意欲的な学習を促進。

・ 総合的な学習の時間では、テーマを「自己を生かすー今も、そして将来もー」とし、以下の視点で学習活動を組み立てる。

- ① 人間関係形成能力と適応能力を高める
- ② 生涯という長いスパンで生き方(ライフプラン)を考える

・ 道徳では、以下の点をねらいとする。

- ① 「自己を見つめる力」を高めさせる
- ② 規範意識の向上や価値観の育成

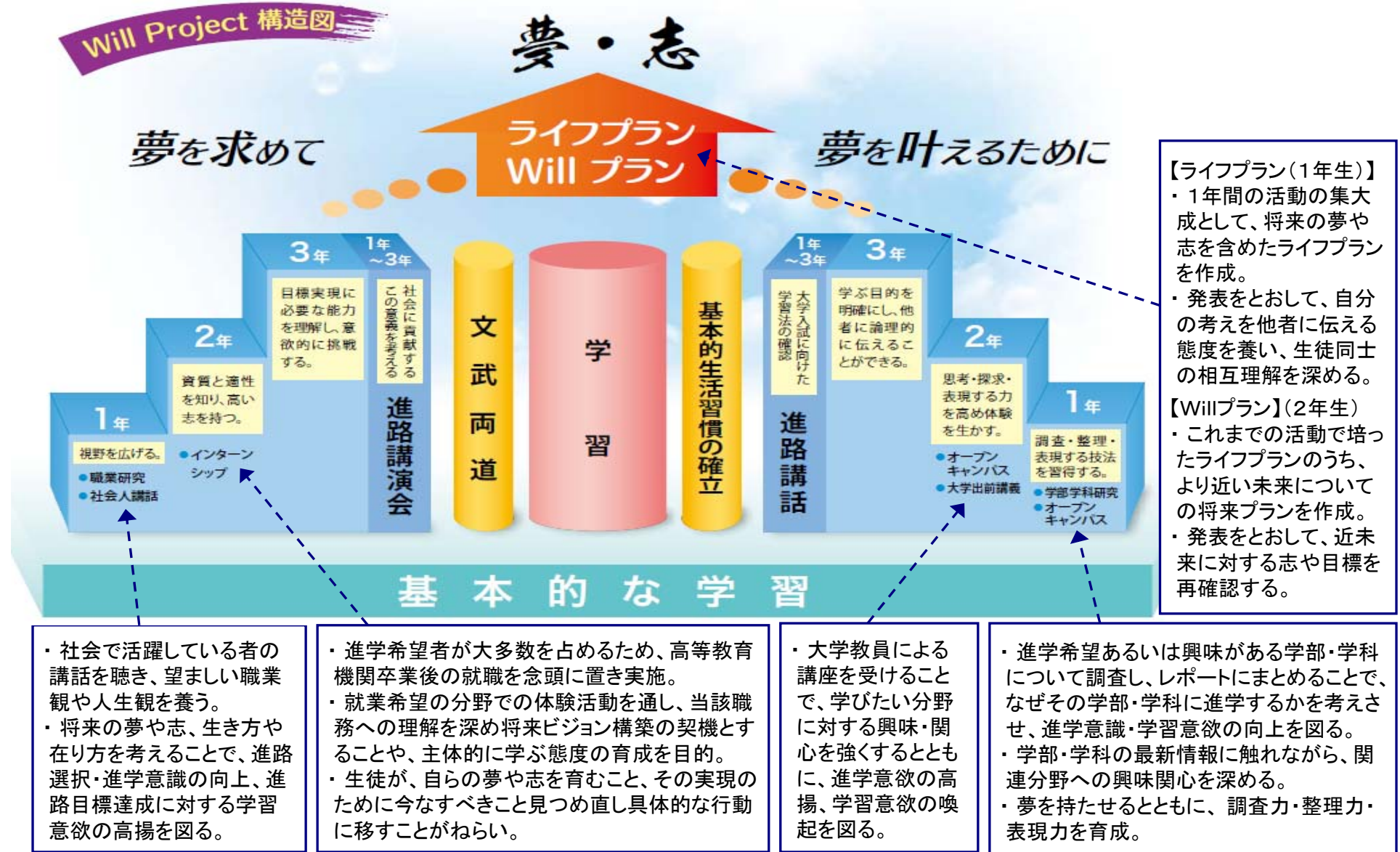
・ 特別活動では、以下の点をねらいとする。

- ① 集団の中で協力して課題に取り組める自分を作る
- ② 自分自身と他人のことを知る

(出典) 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター「キャリア教育 体験活動事例集(第1分冊)」(平成20年3月)より作成

学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例 ③ ～ 秋田県立能代高等学校（普通科・理数科）～

- 生徒に「大きな夢と高い志」を持たせ、自己の可能性に挑戦する気概を育てることを目的とした取組である「Will Project」において、キャリア教育を実践。



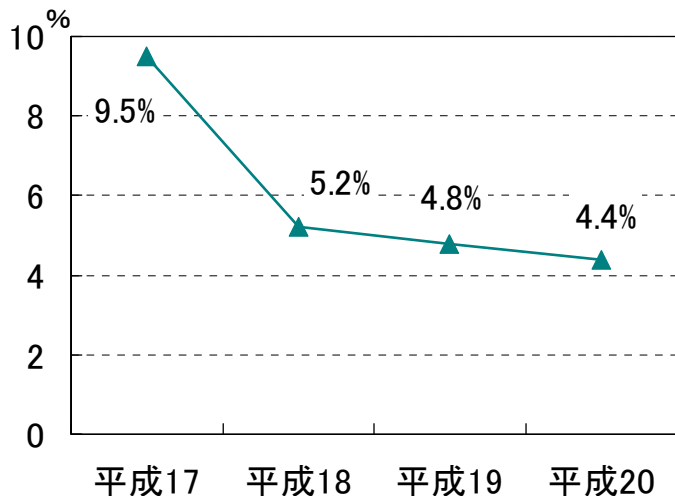
(出典) 秋田県立能代高等学校

「文部科学省指定『高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究』平成20年度 実施報告書(2年次)」より作成

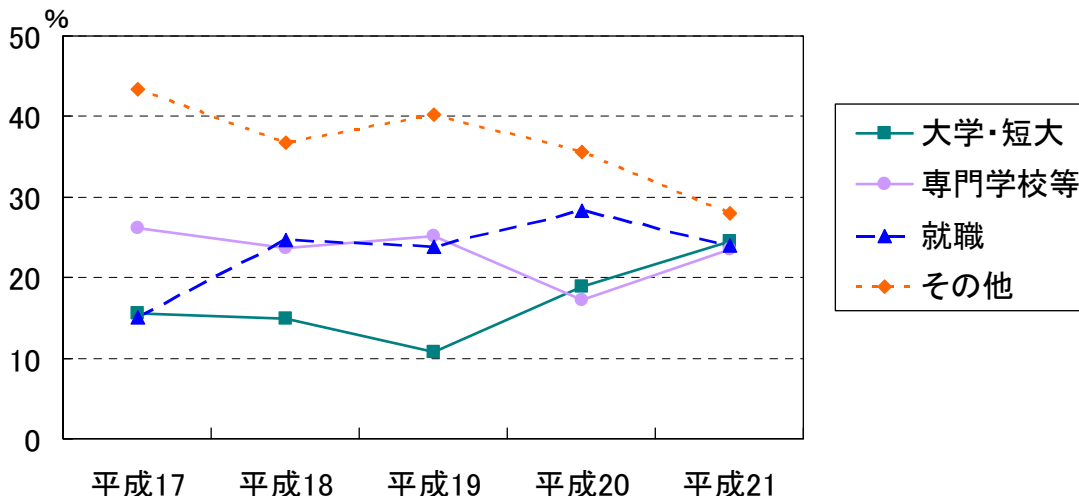
学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例 ④ ～ 神奈川県立田奈高等学校（普通科）～

- 「キャリア教育の充実」「授業改善の研究」「学習を支える条件の整備」の3つを通じ、生徒の学習への意欲を引き出し、学力の向上へつなげる取組を実施。
- 1学年の「総合A」(2単位)、2学年の「総合B」(1単位)を柱に、学校教育活動全体でキャリア教育を展開。教員と生徒が対話できる環境づくり(例:1学年教室の近くに「学年室」を置く)など一人一人の生徒に合わせたきめ細やかな指導を通じ、生徒が自らの将来に希望を持てるように支援。
 - ※ 総合A …「環境と自分」をテーマ。総合学科の「産業社会と人間」を参考に、学校独自のテキストを作成。職場見学体験や職業ガイダンス等を通じ、仕事の世界を知り自分自身の将来について考える「進路研究編」、日常生活に潜む様々な課題やリスクについて考える「生活研究編」で構成。(平成21・22年度については、「生活・進路研究活動」として実施)
 - 総合B …「インターンシップ」「専門学校実習」「アルバイトから考える(卒業生の職場を訪問)」などキャリア教育に関する講座を含めた12の講座を実施。生徒はそこから講座を選択。
- 平成21年度より、生徒も教員も学んでいることを振り返ることができる仕組みとして「ポートフォリオ」を導入。
- 平成21年度より、神奈川県教育委員会は、「クリエイティブスクール」(学習意欲を高める全日制課程の新たな学校のしくみづくり)として指定。
- これらの取組の実践を通じ、中途退学率や進路未決定率の低下、キャリア教育プログラムへの生徒の高い評価、生徒の学習意欲の向上などの成果が現れている。

【中途退学率の推移】



【進路状況の推移】



(出典) 神奈川県立田奈高等学校

「文部科学省指定『学力向上拠点形成事業 ～確かな学力育成のための実践研究事業～』平成20年度 実践研究報告(第3年次)」等より作成

キャリア教育に関連する目標・内容及び教育活動の例(小学校・中学校・高等学校)

※この資料は、学習指導要領の記述の中から、キャリア教育に関連する内容を、各学校段階の比較を中心に事務局で整理したものであり、キャリア教育に関連する内容はこれに限らない。

	小学校			中学校			高等学校		
	学習指導要領の記述例		教育活動の例	学習指導要領の記述例		教育活動の例	学習指導要領の記述例		教育活動の例
	目標	内容、配慮事項等		目標	内容、配慮事項等		目標	内容、配慮事項等	
社会	地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚を持つようにする。(第3・4学年)	・ 地域の人々の生産や販売について、～、それらの仕事について携わっている人々の工夫を考えるようにする。(第3・4学年) ・ 地域社会における災害及び事故の防止について、～、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。(第3・4学年)	農家・工場・商店の仕事の様子から話を聞く活動を通して、生産や販売の仕事の工夫と自分たちの生活とのかかわりについて気付く。	【公民的分野】 民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。	(1) 私たちと現代社会 ・ 現代社会をとらえる見方や考え方 人間は本来社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方、まじりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。その際、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付かせる。	・ 現代社会の持つ特色や現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を具体的・体験的事例を取り上げながら理解する。 ・ よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を設け、資料収集と読取り、考察、まとめを行う。	【公民 現代社会】 人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	(2) 現代社会と人間としての在り方生き方 現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。	・ 人々の多様な価値観を背景に生じる衝突や対立、社会的な課題など、現代社会の諸問題を自らの在り方生き方と関連させて考察する。 ・ 持続可能な社会の形成に参画する観点から課題を深め、現代社会に対する理解を深め、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深める。
	我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、我が国の産業の発展や社会の情報化の進展に関心をもつようにする。(第5学年)	我が国の農業や水産業について、～、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。(第5学年) ・ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き	食料生産の盛んな地域で生産に従事している人々に手紙などで調査したり、インターネットで生産地が発信する情報を集めたりして、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きを理解する。						
理科	自然に親しみ、見直しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。	個々の児童が主体的に問題解決活動を進めるとともに、学習の成果と日常生活との関連を図り、自然の事物・現象について実感を伴って理解できるようにすること。	野外に出掛け、地域の自然に直接触れることを通じ、学習したことを実際の生活環境と結び付けて考えるとともに、自分の生活している地域を見直し理解を深め、地域の自然への関心を高める。	自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。	科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることに触れること。また、理科で学習することが様々な職業などと関係していることにも触れること。	自然の事物・現象とかかわりのある職業に言及したり、科学技術に関する職業の人の話を聴かせたりするなど、理科の学習で養う科学的な見方や考え方が職業に生かされることに触れる。	【科学と人間生活】 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	(2) 人間生活の中の科学 身近な自然の事物・現象及び日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。	自然と人間生活のかかわり、科学技術が人間生活に果たしてきた役割に関する学習を踏まえた課題を設定し、これからの科学と人間生活とのかかわりについて考察する。
	【生活】 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心をもち、地域よきか気づき、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。(第1・2学年)	自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。	地域の店や公園などを訪問したり利用したり、そこで働く人々や利用する人々にインタビューしたりするなどの活動により、マナーを守ることや互いに気持ちよく生活できるといった体験を重ね、児童自らが人々と適切に接する大切さを感じ、その接し方を身に付けるようにする。	【技術・家庭 技術分野】 ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。 【技術・家庭 家庭分野】 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。	A 材料と加工に関する技術 (1) 生活や産業の中で利用されている技術について、次の事項を指導する。 ・ 技術が生活の向上や産業の発展と発展に果たしている役割について考えること。 ・ 技術の進展と環境との関係について考えること。 A 家族・家庭と子どもの成長 (1) 自分の成長と家族について、次の事項を指導する。 ・ 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること。	工夫・創造の喜びを体験する中で、勤労観や職業観、協調する態度を身に付ける。 自分の成長とそれにかかわってきた人々を図に表したりして、成長過程を振り返る活動	【家庭 家庭総合】 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実に資する能力と実践的な態度を育てる。	(5) 生涯の生活設計 生活設計の立案を通して、生涯を見通した自己の生活について主体的に考えることができるようにする。 イ ライフスタイルと生活設計 自己のライフスタイルや将来の家庭生活と職業生活の在り方について考えさせるとともに、生活資源を活用して生活を設計できるようにする。	人の一生における就職や結婚などの重要な課題を認識し、自分の目指すライフスタイルを実現するために、経済計画も含めた生涯の生活設計に取り組む。

	小学校			中学校			高等学校		
	学習指導要領の記述例		教育活動の例	学習指導要領の記述例		教育活動の例	学習指導要領の記述例		教育活動の例
	目標	内容、配慮事項等		目標	内容、配慮事項等		目標	内容、配慮事項等	
道徳教育	<p>【総則】</p> <p>学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。</p>	<p>道徳教育を進めるに当たっては、教師と児童及び児童相互の人間関係を深めるとともに、児童が自己の生き方についての考えを深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない。その際、特に児童が基本的な生活習慣、社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断し、人間として生きてはならないことをしなようにすることなどに配慮しなければならない。</p>	<p>係活動などの体験の中で目標に向かって努力する大切さについて話し合う（第2学年）</p> <p>10年間の自分の成長を振り返ることを通じて、生命の尊さを感じるとともに、よりよく生きていこうとする気持ちや態度を育てる（第4学年・総合的な学習の時間と連携）</p>	<p>【総則】</p> <p>学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。</p>	<p>道徳教育を進めるに当たっては、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに、生徒が道徳的価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない。その際、特に生徒が自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やまじりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすることなどに配慮しなければならない。</p>	<p>特別活動と連携して、目標達成に向かってやり抜くことの重要性について考えさせる。</p> <p>教科の学習内容と実生活を結びつけることによって、日々の生活や現在の自分は多くの人たちの努力に支えられていることを考えさせる。</p>	<p>【総則】</p> <p>～生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行う～</p>	<p>道徳教育を進めるに当たっては、特に、道徳的実践力を高めるとともに、自他の生命を尊重する精神、自律の精神及び社会連帯の精神並びに義務を果たし責任を重んずる態度及び人権を尊重し差別のないよりよい社会を實現しようとする態度を養うための指導が適切に行われるよう配慮しなければならない。</p>	<p>「現代社会」において、様々な現代社会の諸課題を取り上げて考察させ、議論などを通して自分の考えをまとめたり、説明したり、論述したりする。</p> <p>「倫理」において、先哲の考え方を取り上げて、自分自身の判断基準を形成するために必要な倫理的な諸価値について理解と思索を深める。</p>
	<p>【道徳】</p> <p>各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する</p>	<p>1 主として自分自身に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。 <p>2 主として他の人とのかわりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすること。 <p>4 主として集団や社会とのかわりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。 		<p>【道徳】</p> <p>各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する</p>	<p>1 主として自分自身に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。 <p>2 主として他の人とのかわりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。 <p>4 主として集団や社会とのかわりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。 				
総合的な学習の時間	<p>横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方考えることができるようにする。</p>	<p>各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。</p> <p>学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。</p> <p>自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。</p>	<p>身近な地域を観察・調査し、地域の特色を捉え、地域社会の一員としての自覚をもたせる（第3学年・社会科と連携）</p> <p>地域の人や身近な人へのインタビューや様々な職業について調べることを通して、自分の将来の目標を立て、自分がやってみたいと思う仕事を見つける（第6学年）</p>	<p>横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方考えることができるようにする。</p>	<p>各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。</p> <p>学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、生徒の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動、職業や自己の将来に関する学習活動などを行うこと。</p> <p>自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。</p> <p>職業や自己の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通じて、自己を理解し、将来の生き方考えるなどの学習活動が行われるようにすること。</p>	<p>職場体験活動の事前学習として、職業人講話や職業調べ等を通して自分の生き方について考えたり（第1学年）</p> <p>体験内容の調査や職場への事前訪問を通して職場体験活動のねらいを理解し、課題を明らかにする（第2学年）</p> <p>職場体験活動において、そこで働く人と直接かかわること等により、自分の生き方について考える（第2学年）</p> <p>職場体験活動の経験をもとに学習意欲を高め、将来の進路に向けての主体的な学習を進めながら自分の進路を考え選択していく（第3学年）</p>	<p>横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方考えることができるようにする。</p>	<p>各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。</p> <p>学習活動については、地域や学校の特色、生徒の特性等に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について知識や技能の深化、総合化を図る学習活動、自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動などを行うこと。</p> <p>自然体験や就業体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。</p>	<p>自分の希望する進路について、近隣の大学等の訪問や関係施設での就業体験など、生徒一人一人が、自己の希望する進路に沿った探究的な学習</p> <p>地域の特産品や地域の伝統的な産物について探究的に学習し、町おこしにつながる商品開発や、商品の販売活動等、地域社会への参画や貢献につながる学習</p>

特別活動	小学校			中学校			高等学校		
	学習指導要領の記述例		教育活動の例	学習指導要領の記述例		教育活動の例	学習指導要領の記述例		教育活動の例
	目標	内容、配慮事項等		目標	内容、配慮事項等		目標	内容、配慮事項等	
	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一人としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。			望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一人としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。			望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一人としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。		
	<p>【学級活動】 学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一人として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。</p>	<p>(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全 ・希望や目標をもって生きる態度の形成 ・望ましい人間関係の形成 ・清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解</p>	<p>・学校生活・学級生活についての話し合い・集会活動</p> <p>・清掃、給食、日直、飼育、栽培などの当番活動</p>	<p>【学級活動】 学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一人として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。</p>	<p>(2) 適応と成長及び健康安全 ・自己及び他者の個性の理解と尊重 ・社会の一人としての自覚と責任 ・望ましい人間関係の確立</p> <p>(3) 学業と進路 ・学ぶことと働くことの意義の理解 ・自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用 ・進路適性の吟味と進路情報の活用 ・望ましい勤労観・職業観の形成 ・主体的な進路の選択と将来設計</p>	<p>・卒業生や社会人・職業人による講話 ・地域の身近な出来事についての話し合い ・望ましい人間関係の在り方についての話し合い ・学ぶこと・働くことについて発表・ディベート ・学習過程の振り返り ・上級学校調べ ・職場体験活動 ・ライフプラン・進路計画の作成・発表 ・身近な職業と職業選択についての話し合い</p>	<p>【ホームルーム活動】 ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一人としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。</p>	<p>(2) 適応と成長及び健康安全 ・自己及び他者の個性の理解と尊重 ・社会生活における役割の自覚と自己責任 ・コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立</p> <p>(3) 学業と進路 ・学ぶことと働くことの意義の理解 ・主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用 ・教科・科目の適切な選択 ・進路適性の理解と進路情報の活用 ・望ましい勤労観・職業観の確立 ・主体的な進路の選択決定と将来設計</p>	<p>・卒業生や社会人・職業人による講話 ・社会の出来事についての話し合い ・望ましい人間関係の在り方についての話し合い ・学ぶこと・働くことについて発表・ディベート ・学習過程の振り返り ・オリエンテーション ・生涯学習機会や上級学校調べ ・就業体験活動 ・ライフプラン・進路計画の作成・発表 ・職業生活、働くことと生きがいについての話し合い ・進路選択の結果とその受け止め方についての学習</p>
	<p>【児童会活動】 児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一人としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>学校の全児童をもって組織する児童会において、学校生活の充実と向上を図る活動を行うこと。</p>	<p>・児童会の計画・運営 ・異年齢集団による交流 ・学校行事へ協力</p>	<p>【生徒会活動】 生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一人としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実と向上を図る活動を行うこと。</p>	<p>・生徒会の計画・運営 ・異年齢集団による交流 ・学校行事へ協力</p>	<p>【生徒会活動】 生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一人としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実と向上を図る活動を行うこと。</p>	<p>・生徒会の計画・運営 ・異年齢集団による交流 ・学校行事へ協力</p>
	<p>【学校行事】 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。</p>	<p>・ボランティア活動 ・飼育栽培活動 ・地域や公共施設の清掃活動 ・福祉施設との交流</p>	<p>【学校行事】 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。</p>	<p>・職場体験活動 ・ボランティア活動 ・地域社会への協力 ・上級学校・企業訪問</p>	<p>【学校行事】 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>全校若しくは学年又はそれに準ずる集団を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。</p>	<p>・就業体験活動 ・ボランティア活動 ・地域社会への協力 ・上級学校・企業訪問</p>
	<p>【クラブ活動】 クラブ活動を通して、望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一人として協力してよりよい生活づくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>学年や学級の所属を離れ、主として4年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて、異年齢集団の交流を深め、共通の興味・関心を追求する活動を行うこと。</p>	<p>・クラブの計画・運営 ・異年齢集団による交流</p>						

※ 中学校・高等学校において、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動は、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものである。

科目「産業社会と人間」の取組例①

東京都立晴海総合高等学校

【目標】

- ・ 卒業後の進路や生き方について考える
- ・ 2年生からの「系列」及び「科目」を選択する考え方や態度を養う
- ・ 学ぶことの意義について理解を深める
- ・ 学び方(Learning Skill)を学ぶ
- ・ 社会の変化を踏まえ、未来社会でも個性を発揮することを考える

【主な内容】

- ・ 班別調査学習(発表内容の検討 → レジューメ等の資料作成 → 発表会)
→ ・ 現代社会の課題について考える
 - ・ 社会における自己の活かし方を考える
 - ・ プレ課題研究(2年次)課題研究(3年次)につながる調査方法・発表表現の習得する
- ・ 職場訪問(事前説明・職業に関する講演会 → 職場訪問 → 報告会)
→ ・ 職業の世界(事業・組織・社会)を知る
 - ・ 勤労観・職業観を育成する
 - ・ 社会規範を知る
 - ・ コミュニケーション能力を高める
 - ・ まとめ、発表する力を高める
- ・ ライフプラン作り(自分史の作成 → 発表原稿の作成 → 発表会)
→ ・ 自分の将来像を具体的にイメージさせ、暫定的な目標の設定をし、夢の実現に向かう行動
 - ・ 現在の自分の生活を省みる
 - ・ 友人のライフプランから学ぶ
 - ・ お互いの個性を活かす態度を身につける

愛知県立岩倉総合高等学校

【目標】

- ・ 様々な活動(講演・調査研究・見学・体験など)を通して、自らの進路や将来のあり方について、考えを深め、より望ましい生き方を探求する

【主な内容】

- ・ 校外学習(企業・大学の見学 → 発表会準備 → 発表会)
→ 「調べる力」「聞く力」「まとめる力」「発表する力」の土台作り
- ・ 地域の産業見学(企業見学 → 発表会準備 → 発表会)
→ 地域の産業理解、職業と地域の関連、身だしなみやマナーの大切さなどを学び、勤労観・職業観を育成
- ・ 「社会人講師の先生を囲んで」講演会
(地域の経営者との座談会・体験学習 → 発表会準備 → 発表会)
→ 今後の人生や職業を体感するとともに、様々な職業の人が社会を支えていることを理解
- ・ 研究報告書の作成・発表
→ 1年間の自分の取組や成長を客観的に振り返り、それを発表することにより、キャリア力(人生づくりの力)の育成を図る

科目「産業社会と人間」の取組例②

筑波大学附属坂戸高等学校

【目標】

- ・ 様々な体験的学習を通して自己を見つめ、将来について考え、2、3年次の履修計画を作成する
- ・ 産業や社会について学び、産業の意義や使命を理解し、どうしたら社会をもっとよくなるかを考える

【主な内容】

- ・ 社会人講師の講演会、菜園づくり
→ 色々な体験を通して、自分の適性を把握する。菜園づくりを通して食の生産を含む社会の在り方を考える
- ・ 社会人講話と職場実習、上級学校見学会
→ 職業や上級学校を知り、進路を考える
- ・ 特別支援学校との交流会、福祉体験
→ 自分の立場と違う人を知り、自分を見つめ直すとともに、社会の在り方を考える
- ・ ライフプランの作成（発表準備 → 発表会）
→ 履修計画を作成する過程における考えを整理し、決意を固めるとともに級友たちの考えを知る

大分県立日田三隈高等学校

【目標】

- ・ 自分を知る、社会を知る、自分と社会の接点を知る
- ・ 「調べる力」「まとめる力」「発表する力」「聞く力」の4つの力を身につけ、これを「生きる力」に結びつける
- ・ 自ら進んで進路を選択していく能力を身につける

【主な内容】

- ・ 進路学習（職業調査：調査 → 発表準備 → 発表会）
→ 活動を通じて4つの力を養い、これまで興味・関心の無かった職業を理解するとともに、発表会等で進路情報を共有することで、社会を知る。
- ・ 職場見学・上級学校見学
（事前調査 → 報告書作成・共有 → 見学 → 発表準備 → 発表会）
→ 職場や上級学校の実際を知ることで、進路に対する視野を広げるとともに、自らすすんで進路を選択する能力を養う。
- ・ 「この人に学ぶ」
（職業人調査：“この人”の選定 → 面接調査 → 発表準備 → 発表会）
→ 個人での活動を通じて4つの力を高めるとともに、得られた進路情報を共有し、職業を通じた在り方生き方について考える。4つの力を総動員する。
- ・ 「キャリアプラン・ライフプラン」の作成（発表準備 → 発表会）
→ 1年間の学習をもとに、今後の2年間及び生涯を見据えた自己の在り方生き方をシミュレーションする。4つの力の集大成を図る。
- ・ 「3年生に学ぶ」「卒業生に学ぶ」
→ 身近な先輩に学ぶことで、自分の近未来像を描く。これからの高校生活への意欲を喚起するとともに、様々な職業についての理解を深める。

※ すべての活動において、「調べる・まとめる・発表する・聞く」ことを繰り返し、全員がホームルームで発表し、ホームルーム代表が学年発表会に臨む。（全員が主役となる）

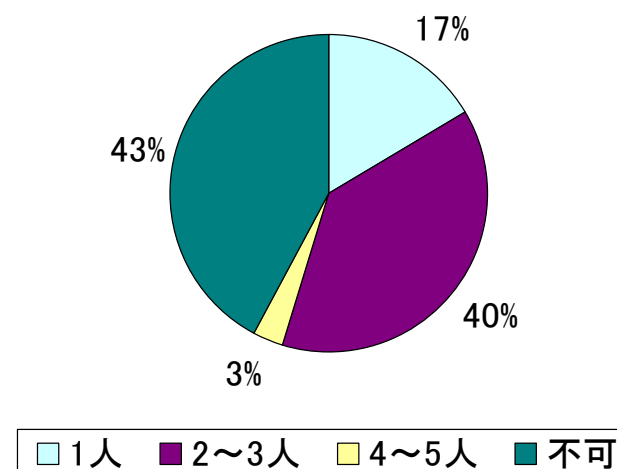
高等学校普通科における職業教育の実践例 ～ 大阪府立布施北高等学校 ～

- 就職希望者が多いことなどを背景として、平成16年度より、地元東大阪市の企業・施設の協力を得て「デュアルシステム」に取り組むことにより、「良き社会人、職業人」となるための訓練を、学校と地域の企業・施設と協働で実施。
- 平成16年度、文部科学省「専門高校等における『日本版デュアルシステム』推進事業」において研究指定(3年間)平成18年度より、「デュアルシステム専門コース」を設置。平成21年度は、2・3年次でデュアルクラスを編成。
- 学校設定教科「デュアル」の科目として、2年次に「デュアル実習Ⅰ」(6単位)、「デュアル基礎」(2単位)、3年次に「デュアル実習Ⅱ」(6単位)、「デュアル演習」(2単位)を開設。希望者は2年次より選択。
 - ※ デュアル実習Ⅰ … 年間を通じて、週1日、企業・施設での実習を行う。実習を通じて、自らのキャリアへの意識を高め、「在学中に何を学ぶか、何をすべきか」を考える。また、多様な価値観の中で物事を判断し、社会で生きる力をつける。
 - デュアル基礎 … 実習を振り返り、自分にとっての学びを確認する。また、レポート作成やプレゼンテーションを通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力(聞く力、話す力、まとめる力、書く力)を養う。
 - デュアル実習Ⅱ … 年間を通じて、週1日、企業・施設での実習を行う。実習を通じて、自らのキャリアへの意識を高め、自らの進路実現に向けた自己開発を積極的に行う。また、多様な価値観の中で物事を判断し、人間力を育てる。
 - デュアル演習 … 実習を通じて学び得たことを、発展・発信する。また、模擬的に企業の活動に参加し、経営者の視点を学ぶ。
- その他、「マナー講習会」「講演会」「プレゼンテーション講習会」などの講習・講演の開催や、「企業・施設見学」「地域のイベントへの参加」「デュアル実習発表会」などの行事を実施。

※ 実習分野別デュアル実習生徒数

		合計	保育 幼児教育	介護 福祉看護	営業 販売	製造 現業
H17		17	3	5	4	5
H18		27	10	5	4	8
H19	前期	57	35	7	6	9
	後期	55	25	7	11	12
H20	前期	52	22	8	11	11
	後期	51	20	6	12	13

【参考】企業の受入れ人数(平成18年3月)



(出典) 大阪府立布施北高等学校「平成20年度 デュアルシステム専門コース 報告集」等より作成

専門高校における職業教育の実践例① ～ 岐阜県立岐阜商業高等学校 ～ (卒業後更に高度な知識・技能を身に付け、将来の専門的職業人として活躍できる人材の育成)

中央大学商学部との高大接続プログラム(岐阜アカウティングプログラム)の概要

- 日商簿記検定1級又は全経簿記検定上級合格者で、一定の評定以上の成績と学校長の推薦があり、将来公認会計士を志望する者で中央大学への進学を希望する者が中央大学が実施する「会計ゼミ」を受講。会計ゼミの成績と面接で大学への合否が判定される。これら「会計ゼミ」は大学入学後、「高等簿記論Ⅰ」2単位として認定。
- 「会計ゼミ」受講生は、商学部とは別に、公認会計士を養成する専門機関である中央大学経理研究所より出前授業や教材の提供を受けるとともに、大学進学後は、経理研究所に身を置き、公認会計士を目指し学習。
- 「会計ゼミ」の内容は、財務会計の基礎から応用、管理会計論、監査論、税務会計論、会計システム論と会計学全般の内容が実施され、すべてゼミ形式で実施。

SuperAccountingコース高大連携プログラム

